

平成22年第1回定例会（3月）一般質問

（4）道徳教育について

- 議員 宮下裕美子 第4点目は、道徳教育についてですが、平成22年度教育行政執行方針に「小中学校ともに道徳の時間を充実したものとするため、道徳教育推進担当教師を明確に位置づけ、特に『心のノート』の活用を図るとともに、」と記載されていますが、これは新学習指導要領の道徳教育の充実からきていていると思います。

一方、月形町の子どもを取り巻く道徳環境は非常に安定していて、比較的良い状況であると感じています。それは道内を転勤等で移動する先生方から「月形町は地域の教育力が高い。」「子ども達が素直でまじめである。」と評価される機会が多いことから推察できます。確かに放課後活動や子供会活動、日常生活においても保護者だけでなく地域の方々が積極的に関わり協力していただいていること、地域の協力で精神的・肉体的に安心・安全な環境が維持されていることなど、私も子育て世代の一人として実感しています。このような状況で「道徳教育の充実」を進めるのですが、一般に荒れた地域や学校ならそれを正すことが喫緊の課題となり、目標設定は容易であると思われませんが、ある程度整っている月形町のような場合、どのように進めて行くのか、管理側の考えが非常に重要になってくると考えます。

月形町の現状を踏まえた上でどこに主眼を置いて「道徳教育の充実」を進めて行くのか。加えて高い地域力の源である住民との連携は、検討されているのか、お聞きいたします。

- 議長 吉田 義一 教育長。
- 教育長 渡部 稔 この質問要旨を読むと月形の地域力が高い、親も子どもを持たない方々の地域力の高い、子どももすくすく育っているから道徳教育はやらなくていいのではないかというように取れたのですが、やはりやっ行って行かなければダメであり、こんなふうに捉えてください。

確かに月形の子ども達は素直に育っており、よその町では考えられないくらい俗に言う悪いこともしない、たばこを吸う者もない、夜出歩く者もない、お年寄りの面倒を見るなどクラスに30人いたら大体は○であると思います、よその地域は○もいれば△や×、二重×もいると思いますが、二重×や×、△を道徳の時間を年間35時間の授業を通して日頃やっているものの集約ですが、×を△にする、△を○にするという仕事はどうしてもいるのです。あるいは○を落ちないように○は○に行ってもらおうというこ

とで、月形の子どもはほとんど○だからどうするのかというと、○は△や×にならないように授業をしてもらうということで、それよりむしろ○を◎にするようにしてもらうということで、ずっと○か◎で子ども達の心が育っていくという方向で授業はやって行かなければならないと思います。

それと地域力の活用ですが、道德の時間ばかりではなく、国語・算数・社会・理科と何でもいいのですが、先生だけで1時間びっしりやるのもいいのですが、その中に地域の人の人材を活用してより効果を上げるということも大事だからどうぞやってくださいということは、言っておりますので、校長に聞きますと岩見沢の人権擁護委員会、月形の人権擁護委員会の方々に来ていただき、ビデオを見せるなどをして、主にいじめの授業をやってもらっているということで、これは札比内小学校・月形小学校・月形中学校も毎年やっており、これは非常に良いことであると思います。

そのような考え方から、他の題材や勉強で、例えばお寺のお坊さんに来ていただき説教を20分ぐらいやった後に担任にバトンタッチするという授業は一向に構わないと思います。

○ 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。

○ 議員 宮下裕美子 先ほどの答弁で、月形町の子ども達は概ね○のような状況で、○が下に落ちないようより◎になるようにということですが、一般的に教員の方々は地方をまわってこられるので、荒れた学校から月形に来られる方もかなり多いと思いますが、そんな中で月形町の子ども達を見た時に、今まで自分たちがやっていたような×の子を○に引き上げる手法はもうそこでは生きないので、月形に合わせたきちんとしたプログラムや思考がないと○が◎にならないので、新学習指導要領をちょっとにわかに勉強させていただきましたが、非常に細かいかたちで特に道德教育に関しては普通の教科とは別の枠でかなり細かく書いてありますし、解説などもたくさん出ていて、色々、書かれています。そういうことがいきなり月形の穏やかなある程度十分に整っている中では、必ずしもそういうのがうまく生きないのかなと、もっと更なる上を求められているのだということを感じました。そうなるとうやはりやって行かなければならないという教育長の意気込みも分かるし、私もそのように思いますが、具体的にこんなことということで道德教育では難しいと思いますが、具体的な主眼、先ほど人権擁護委員を使っていじめ教育はやっているということでしたが、何か具体的にこの部分、例えば我が町ではいじめが無いように、より強化的にこうやる、情緒教育のために文化的なことを入れて道德的に心が豊かな子を育てるなど、何かしら方針があってもいいと思うので、何か考えがあれば一つ教えていただきたいと思います。

それから先ほど人権擁護委員の授業が行われているということで、私も公開授業で見たことがあって、私見たのは岩見沢支所から派遣されてきた方で、着ぐるみを着たりして色々な意味で子ども達は楽しく授業をしていましたが、やはりちょっと遠い世界を感じがあって、先ほど教育長が言われたように地域のお坊さん、地域で活動されている方は皆さんそれぞれ考えがあって、慈悲深いことをされるなど本当に身近な感じの中でそのようなことが実際に教育の中でこれが取り入れられたらすごく素晴らしいと考えていますが、実際にそういうのはまだなされていないので、今後それをもう少し強化していただけないのか、考えますがどうでしょうか。

- 議長 吉田 義一 教育長。
- 教育長 渡部 稔 地域の人材活用あるいは地域の素材・教材の活用ですが、狭い町ですからそのような人材が見あたるかということもあると思いますが、先ほど言ったように学級担任だけが1時間びっしりやるのではなく得意分野を持っている方がいますので、それを有効に活用してくださいと言っていますし、4月が始まったら言っておきます。それと道德の時間は、将来子どもがある場面に出くわした時に、例えば老人が駅のホームでお腹を抱えて苦しんでいる時に、それを素通りするか、そこで何か声を掛けたり手当をするか、そういう場面に出会った時に何をするのかということのを植え付けると言っては変ですが、それが主眼なので、そのようなことでやっていますので、確かによその学校から来た先生方は我が町に来たら楽であると言いますが、楽だけではダメで、楽ではなく子どもが問題を起こさないから楽であると確かにある面では楽であるかもしれませんが、違ってより積極的に良いものをもっと良いものにすることが、私たちの仕事です。
- 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。
- 議員 宮下裕美子 今の答弁を聞いて安心しました。その主眼が先ほど例に出された将来的に子どもが人を見殺しにしないような協力体制がとれるようなところに主眼をおいてやるということや、より良いものを求めて、月形は楽であるということではなく、よりもっと高いところを目指すことを教育長が考えて、それを積極的に言っていただけることを聞いて安心しましたので、ぜひともこのまま道德教育に関しても高いレベルで月形町が維持されることを望みたいと思います。